

経営比較分析表（令和4年度決算）

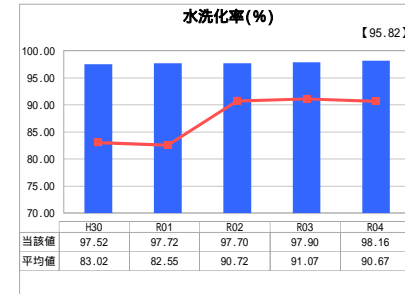
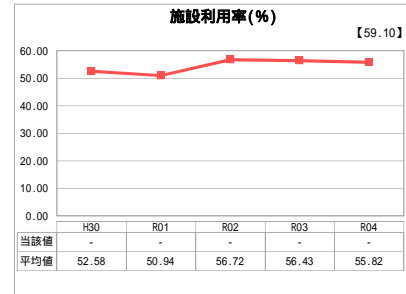
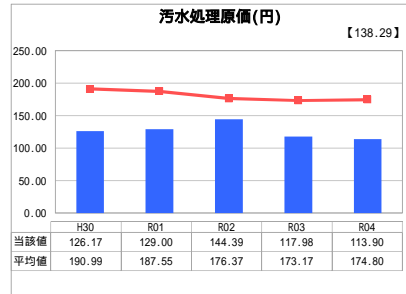
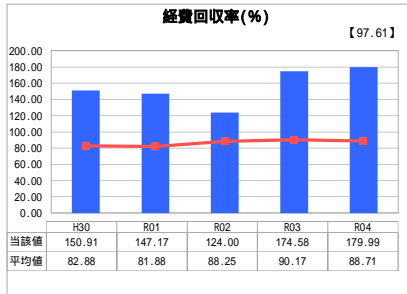
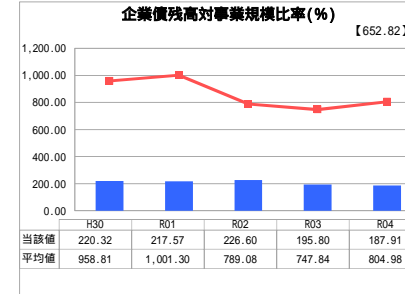
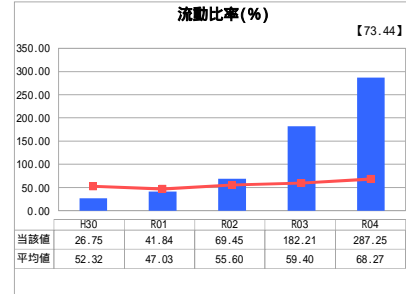
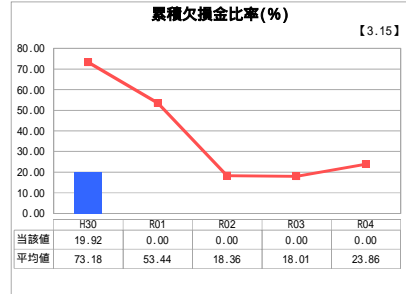
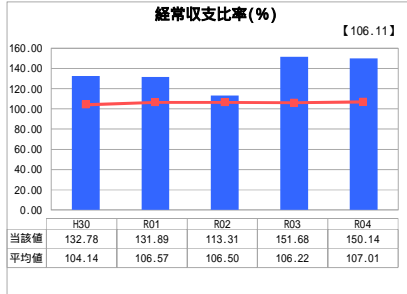
兵庫県 小野市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	72.77	36.23	95.38	2,783

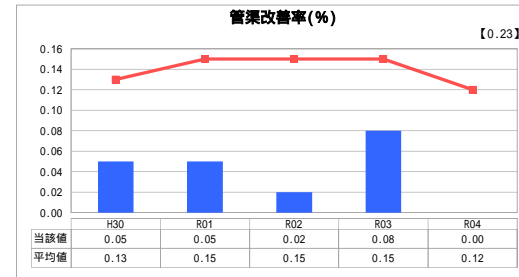
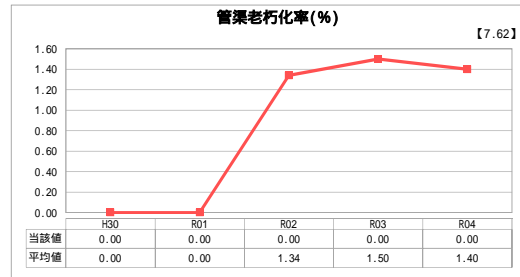
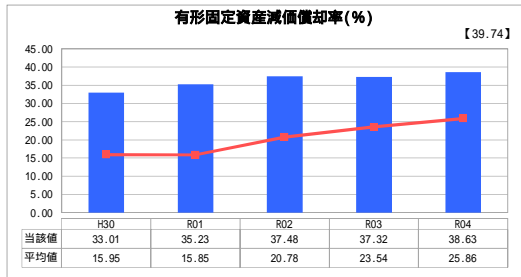
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
47,451	92.94	510.56
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
17,156	4.90	3,501.22

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率
使用料の改定(H28実施)や地方債の支払利息のピークを終えたこと等により、同規模団体及び全国の平均値を大きく上回っており、適正な数値を推移している。
累積欠損金比率
上記により年々減少し、R1年度に累積欠損金は無くなった。
流動比率
上記の事由により、類似団体及び全国の平均値を上回り、支払能力を十分に確保しているといえる。
企業債残高対事業規模比率
企業債残高の償還ピークを終えたこと、類似団体及び全国の平均値を大きく下回っている。投資については必要性を十分に検討した上で計画的に実施していく。
経費回収率
100%を上回っており、適正な使用料収入の確保ができている状態である。今後も経費の削減に努めつつ、健全経営を堅持する。
汚水処理原価
R4年度は有収水量は減少したものの、汚水処理にかかる委託料の減があったため、当該数値が減少し、類似団体及び全国の平均値を共に下回った。今後も維持管理経費の削減に努め、効率化を図っていく。
施設利用率
区域内すべてにおいて流域下水道に接続しているため、当該数値は0となっている。
水洗化率
平均値を上回っており、公共用水域の水質保全が保たれている。更なる向上を図るため100%を目指した取り組みを推進していく。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率
R3は「ひょうご小野産業団地」の完成により一時的に微減したものの、R4においては上昇した。これは、平準化に伴う投資抑制によるものである。当該値は、類似団体平均値よりも大きく上回っているが、全国平均値と比較すると下回っており、問題ない数値と言える。今後も当該値に留意しながら、投資の平準化に努める。
管渠改善率
R4において「0」となっているのは、更新・改良工事を実施しなかったのではなく、当該年度においてはマンホールの改良更新を主に行ったことで、更新管延長がなかったためである。今後も引き続き計画的に更新・改良工事を行い、施設の改善を図る。

全体総括

使用料の改定(H28)及び、企業債償還のピークを終えたことで、経営状況は改善傾向にある。今後も経費の削減に努め、健全経営を継続していく。
また、将来、下水道事業全体で施設の改築更新に多額の投資が必要になるものと見込んでおり、雨水事業や長寿命化を含めた管渠への投資については、費用対効果等を含めて総合的に判断しながら計画的に進めていく。

「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。